

# グリーンサークル 53号

クローズアップ  
講座イベント紹介

名黒 二郎  
竹笛・ドングリ工作  
第4回多摩中央公園・多摩センター  
パークライフショー

多摩市みどりのかわら版 鈴木 千絵



ヤマザクラ

～クローズアップ～

## グリーンサークルに寄せて

多摩市グリーンボランティア連絡会 副会長 名黒 二郎



桜が咲く季節が巡って来て、私が多摩市グリーンボランティア講習会のチラシを偶然中央公園で見つけ、講座に参加して十数年たちました。この講習会に参加して初めて、多摩市には公園だけで

なく緑地が様々にあり、その維持管理に市民が参加できる仕組みがあり、自然に触れる新鮮な驚きを感じることが出来ました。

当時は会社と自宅の往復で、休日には車か電車で移動して途中にある緑豊かな緑地には気付かず、出かけた先の山々やキャンプ場で自然を満喫した気分になっていました。遠出せずにすぐ身近にある緑豊かな場所で、それをはぐくむのは幸せだと感じました。

講習会終了後は多摩センター青木葉通りの一本裏にある亀ヶ谷緑地と、百草団地よりのなな山緑地で活動を始めました。最初は木の名前も花の名前さえも判らずでしたが、草刈り、自生植物の保護を通して里山の維持を行い、循環再生を計ります。四季それぞれの手入れと大雨・台風・雪の後、また近年のナラ枯れ被害と対処すべき事象はありますが、私たちにできることは微力でも続け、大きなことは市



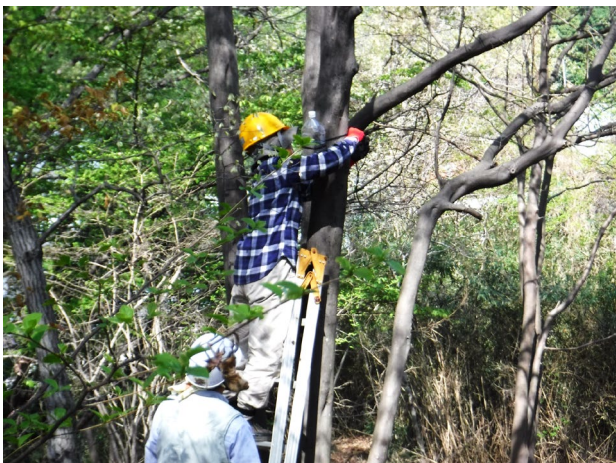
エコフェスタの景品づくり（青竹踏み）

お願いして安心して心地よい空間を作っていきたいです。

現在第22期を開催中の初級講座ですが、私は第9期を修了しました。それでも修了後10年たつと、講習会の同期の人たちも、それぞれの事情で継続して活動しているのはわずか数名になりましたが、多摩市の事業として、グリーンボランティア講座を継続して行っているのだから、新しい仲間が加わっていただいています。講師、事務局の方々には大変ご苦労があるかと存じますが、引き続き宜しくお願いします。

今私が参加している亀ヶ谷緑地班では、地域対応として、春には児童館に協力して親子タケノコ掘りイベント、夏には七夕飾り用竹及び竹笹を配布しています。又、エコフェスタでは竹を使った景品を提供しています（去年は青竹踏み）。少しでも地域社会とつながりを絶やさずにして、我々の活動への理解を得ていこうと考えています。

グリーンライブセンターの設備の老朽化に伴い、改修計画が持ち上がり、多様性を尊重して同時に循環型社会に沿った案作りを進めています。来春に改修を終えてリニューアルオープンする姿が楽しみです。



亀ヶ谷緑地での活動の様子。ハチトラップの設置

## ～講座イベント紹介～

## 竹笛・ドングリ工作

パルテノン多摩こどもひろば OLIVE 島田 良恵

3月2日に開催された第4回多摩中央公園・多摩センターパークライブショーにて、「竹笛・ドングリ工作」を、パルテノン多摩こどもひろば OLIVE のきらきらひろばで開催しました。このイベントは、グリーンライブセンターとこどもひろば OLIVE との連携事業です。

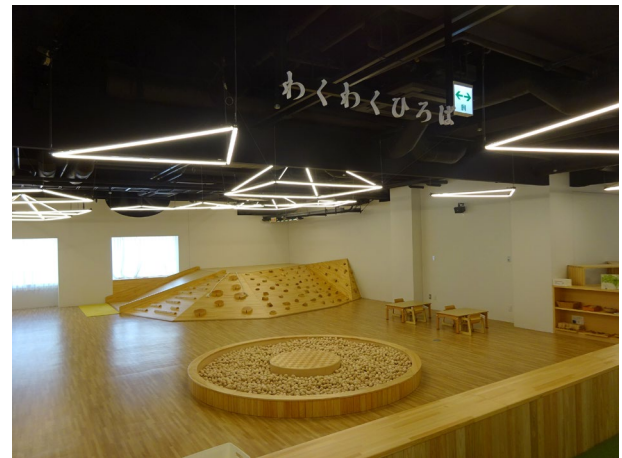
多摩グリーンボランティア森木会クラフトプロジェクトのメンバーや多摩市グリーンボランティア連絡会事務局スタッフの方々が講師となり、竹笛を作ったり、ドングリでかわいい置物やストラップを作ったりするのを親子に楽しんでもらいました。また、工事中のグリーンライブセンターで咲き誇っていた「花桃」等を使った見事なフラワーアレンジメントを恵泉女学園大学の方がきらきらひろばに飾って、来場者の目を楽しませてくれました。

参加者は、1歳の小さなお子さんから幼児、小学生はもちろん、自分で作りたくなった大人まで、幅広い年齢層の方々が、開始時刻前から列をつかって参加。完成した竹笛は、ピーピーとよい音が鳴り、かわいらしくできたドングリの置物やストラップは子どもたちが OLIVE のスタッフに見せてくれました。

こどもひろば OLIVE とグリーンライブセンターが連携事業を初めて行ったのは、2022年10月です。改修工事が始まる前の多摩中央公園で、「竹のおもちであそぼう」というイベントを開催。多摩中央公園や多摩市内の緑地に生えている竹で作った竹馬、竹ぼっくり、竹とんぼを多摩グリーンボランティア森木会の皆さんがたくさんもってきて、乗り方



子どもたちが夢中になって作っています



こどもひろば OLIVE わくわくひろば 木のぬくもりあふれる空間で子どもたちが楽しく遊びます。

や飛ばし方を教えてくださいました。コロナ禍でこのような体験型イベントが少なくなっていた子どもたちです。多くの親子の参加がありました。2023年は、「ガリガリとんぼをつくってあそぼう」、「自然素材でクリスマスリースをつくろう」を開催。森木会の皆さんが材料の準備から作り方のレクチャーまで丁寧にしてくださいました。

グリーンライブセンターとの連携事業を OLIVE で開催する意義としては、多摩市の雑木林や公園、緑地にある自然素材に触れるきっかけを幅広く子育て家庭に提供できること、子どもと大人の遊びをより豊かにできることにあると考えています。自然を活用した遊びは日本の大切な文化のひとつです。身近な自然素材を使った遊びを知っている大人が子ども達に伝えていかなければ、子どもたちは知らずに大人になってしまいます。子どもの頃に親子で遊んだ経験、思い出が積み重なっていくことで、大人になったときに子どもとの遊びを楽しめる人になれるのではないかと思います。そのような楽しい記憶となる遊びを、今後もグリーンライブセンターと協働して開催していければと考えています。

こどもひろば OLIVE は、2022年3月27日にオープンし、丸2年がたちました。休日には多摩市および近隣から大変多くの親子にご利用いただいています。2024年も「また遊びに来たい!」と思ってもらえるこどもひろば運営を進めてまいります。

～講座イベント紹介～

## 第 4 回多摩中央公園・多摩センター パークライフショー

TAMA セントラルパーク JV 吉澤 冬悟

3 月 2 日（土）、「第 4 回多摩中央公園・多摩センター パークライフショー」が開催されました。「パークライフショー」とは、公園でやりたいことを実践することを目的とした、社会実験の要素を持つイベントです。さらに今回は、「全ての壁を取り払ってごちゃまぜで楽しむ！（＝インクルーシブ）」というテーマを加え、障がいの有無や大人・子どもを制限せず、参加したい人が誰でも楽しめるイベントを意識して開催しました。

これまでの過去 3 回は、公園全面を使い大規模に開催できましたが、今年度は、改修工事を進めながら限られたエリアの中で、これまでに劣らないパークライフショーを開催する必要がありました。会場の候補としては、昨年オープンした「中央図書館」や「大池前テラス」、3 月時点でまだ閉鎖が行われていない「自由広場」、工事期間休館している「旧富澤家」を限定開館するなど挙げられますが、中央の「大芝生エリア」が使えない為、公園の北側と南側が分断されてしまうことが課題となりました。そのために、①「パルテノン大通り」や「レンガ坂」のような会場同士をつなぐ役割を持つ道路エリアを充実すること、②楽しみながら自然と各会場に巡ってみたいような回遊型の企画を充実させることを念頭に準備を進めました。

そんな背景から、道路エリアの充実の面では当日、多様なマルシェやキッチンカーに出展頂き活気作りに大きく貢献いただきました。また、工事エリアの境界にある仮設パネルを活かした「仮囲い絵画イベ

ント」が公園北側と南側を繋ぐレンガ坂の中腹で実施され、楽しくエリア移動できる要素となりました。回遊型の企画としては、「ミニ・ロゲイニング」や「キーワードラリー」、工事中の公園をまわる「ガイドツアー」が実施されました。ガイドツアーでは市民の方はもちろん、多摩市長ら市の方にもご参加頂き、多摩中央公園の魅力や改修工事で新しくなるエリアの特徴をお伝えする有意義な時間となりました。

実施企画は、事前に告知したものでだけでも 25 種類、その他事前告知にない追加企画も合わせるともっと多くの企画数に及びます。前述の中で例を挙げることができた企画はごく一部ですが、当日 3 月 2 日に向けて各会場・各出展者の皆様それぞれが、限られた会場の範囲の中で賑わいをつくる為に、たくさん検討頂き、準備や当日の運営を行って頂きました。今回私が、事務局という仕事をする中で、このような力強く熱意がある市民出展者とともに運営できたからこそ、今回のような大きなイベントが開催でき、参加者に楽しんでもらえるのだと強く認識させられました。これからさらに遊びに来てもらえるよう、出展する側にもより満足してもらえるよう、環境づくりや運営体制充実に向け励んでいかなければと感じました。これからも皆様と一緒に活気ある公園を作っていきます。今後ともよろしく願い致します。



仮囲い絵画イベントの様子



工事中のガイドツアーの様子

～多摩市みどりのかわら版～

## 旧富澤家を保存し、未来へつなげていくために 多摩市教育委員会 教育部教育振興課 鈴木 千絵

教育振興課文化財係では、多摩市の文化財を守り未来へ継承する取組をしており、多摩中央公園内の旧富澤家や、一本杉公園内の旧有山家・旧加藤家、都立桜ヶ丘公園内の旧多摩聖蹟記念館などを管理運営しています。

皆さんは、多摩中央公園の中にある旧富澤家をご存知ですか？

旧富澤家は 18 世紀中頃～後半に建てられた家で、平成 2 (1990) 年に多摩市に寄贈され、平成 5 (1993) 年に復元移築した建物です。富澤家は連光寺村の名主を代々務め、明治天皇がうさぎ狩りなどに来られた時に休憩所として利用された、大変由緒ある家です。

現在、旧富澤家は多摩中央公園の改修工事に伴い休館中ですが、令和 7 (2025) 年から「TAMA セントラルパーク JV」(9 社の企業で構成。以下「JV」) が管理運営を行う予定です。これまでの展示、見学、学習・語らいの場から一歩進め、新たな活用に向け

た取組を検討しています。

令和 6 (2024) 年 2 月には JV 主催のワークショップが開催されました。旧富澤家を実際に見学した後、参加した皆さんから旧富澤家で「できるといいな」のイメージを自由に出し合いました。歴史や古街道を学ぶ講座、真夏の夜に怪談を聞く会、ジャズライブ、中秋の名月を観月する会、百人一首大会、竹細工で遊び道具作りなど、市担当だけでは思いつかない企画を数多くご提案いただきました。皆さんから楽しいアイデアをお伺いし、旧富澤家の活用の可能性を感じました。

また、令和 6 (2024) 年 3 月には JV 主催の「多摩中央公園・多摩センターパークライフショー」が開催され、旧富澤家ではお琴の演奏やファッションショー、子ども向けの遊びや紙芝居等が実施され、皆さんが楽しんでいる様子がとても印象に残りました。

多摩市の歴史を語る上で大変貴重な旧富澤家。多摩市の歴史を守り未来に伝え、多摩中央公園の中にあるロケーションを活かし、楽しんで活用していただける場としていくために、引き続きご協力をお願いいたします。



春の旧富沢家

### 表紙の絵

#### 「ヤマザクラ」絵・内城葉子

ソメイヨシノに比べ寿命は長いはずなのに最近元気がないようです。

<プロフィール> 1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショー Gold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。



紙芝居がこれからはじまります

多摩市グリーンボランティア通信  
グリーンサークル 53 号  
発行日：2024 年 3 月 31 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局  
〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園  
多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>